

長大生が制作した看板使い 舌喰池で水鳥観察会

「いきもの看板」で住民らため池の環境学ぶ
長野大生が「信州上山学」再生ゼミが5年間にわたり
の成果として制作した、た
め池の水鳥を紹介する可動
式「いきもの看板」を使っ
た水鳥観察会が、上山町手
塚の舌喰池で先週開かれ
ました。

「いきもの看板」は、同大
環境ツーリズム学部の甲山

再生ゼミが5年間にわたり
行った坂田平のため池群の
水鳥の調査研究をもとめた
もので、水鳥の種類や生態
ため池の保存・利用などを
紹介。屋内外のさまざまな
機会での活用を想定してい
ますが、観察会での利用は
今回が初めてとなります。



舌喰池のゼミ広場で行わ
れた観察会には、同広場の
整備などに関わった地元住
民らが参加。講演や看板製
作に携わった同学部2年の
三枝広樹さんが、「ここで
見られる代表的な水鳥はカイ
アフリカ、カモ、バン、カイ
リ子育てし、ヒナはかわい

いです」と話し、多くの
方にバードウォッチング
を楽しんでいただけたら
と紹介。指導する同ゼミ
の高橋一成教授は、「ヒ
シやハスは水鳥にとって
貴重な開港だが、繁殖し
すぎるゝ懸念になって餌
になる魚が減るため、適
度な管理が必要」。人間
が利水のため造ったため池
があるから「意識する水鳥
もいる」と解説し
ました。

参加者は学生から誘われ
た双眼鏡で水鳥を観察し、
看板の説明と照らし合わせ
て水鳥を特定。坂田平のた
め池を愛する会の大口義明
会長は、「この看板は素晴
らしい。子どもたちの教育
にも活用できたら」と話し
ていました。